

夢塾だより

～ 親御さんからの手紙 (Ⅱ) ～

(第68号) 令和5年3月24日

夢塾の生徒は親御さんも私の教え子であるという子が多く、親子二代にわたりご縁が続いていて嬉しく思います。若かりし日の私は自己中心的でわがまま、人の話を聞かない変人でした。しかし、30年以上もたつと人間少しは丸くなるもので、今の私はいかなる時も謙虚でありたいと思っています。

先日、鳥取県に住む友人が退職後に夢塾で働きたいとの意向で来県し、2日間の授業を体験していただきました。初日は意気揚々と授業し、二日目も難なくすみました。来年から来ていただくこともあり、という段階に達しましたが、帰路の車中で「與那覇さんが愛情を注ぎこんだ生徒さんを汚すわけにはいかない」との思いに至ったとの言葉を聞きました。

親御さんとのつながりでは、数多くの直筆のお手紙や、ショートメールをいただきます。今日は先月に引き続きそのお手紙を掲載します。

その子は、お姉さんも夢塾の卒業生で、昨年琉大に合格した生徒の妹さんです。

今年は読谷高校から、琉球大学へ4人が合格しました。

来塾者の脱ぎ捨てた靴を、黙って靴箱にいれたり、トイレトペーパーを次の人のために三角折りにしたM君は共通テストでは思うような点数が取れず、やや落ち込んでいましたが、

「君の行動はその名前の通り、真の優しさにあふれている。そこを神様は見ておられるから、あきらめず最後までがんばれ！」と励ましていました。二次試験の「数学」は解けたとの報告。

逆転の「合格」でした。

